

表 A.1 記述統計量(アウトカム)

変数	症例数	最小値	最大値	平均	標準偏差
死亡					
術後 30 日以内の死亡	155	0	1	0.110	0.314
術後 90 日以内の死亡	155	0	1	0.116	0.305
術後合併症					
合併症発症の有無	155	0	1	0.658	0.476
術中出血性トラブル	155	0	1	0.077	0.268
術中虚血性トラブル	155	0	1	0.052	0.222
術後出血	155	0	1	0.045	0.208
髄膜炎	155	0	1	0.045	0.208
水頭症	155	0	1	0.348	0.478
呼吸・循環器系合併症	155	0	1	0.155	0.363
神経症候の出現	155	0	1	0.252	0.435
CT 上の脳実質損傷の出現	155	0	1	0.374	0.485

手術成績アウトカム予測モデル

モデルの特定化(推定)

二項ロジスティック回帰

応答変数 死亡・合併症発症

説明変数 (X_1)基本的属性(X_2)重症度/進行度
(X_3)手術侵襲度(X_4)施設情報

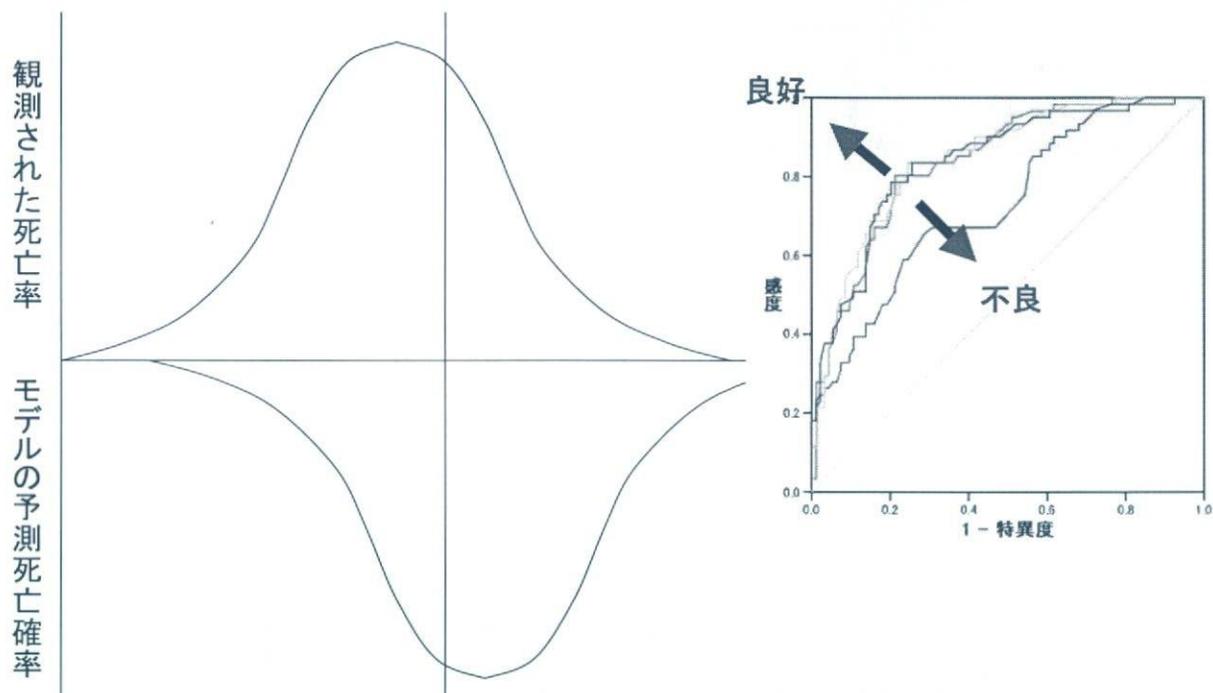
モデル選択

AIC(赤池の情報量基準)

モデルの評価

モデル判別能力 ROC曲線描写によるAUC値

ROC曲線



手術成績アウトカム予測モデル

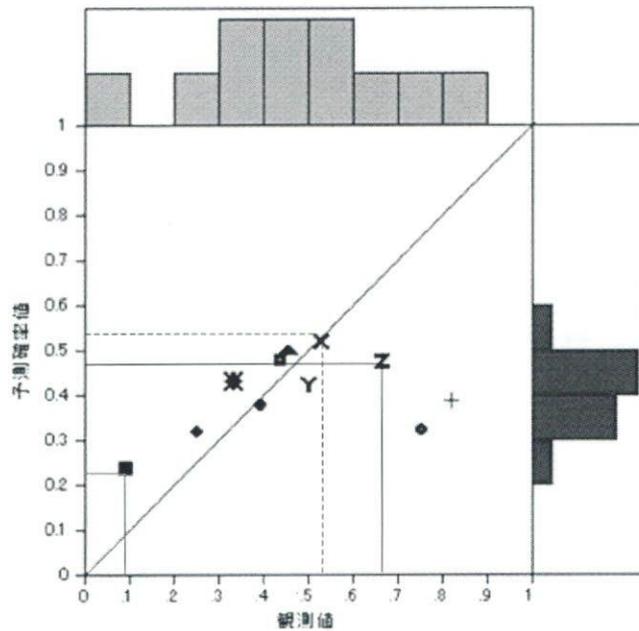
多施設間アウトカム比較

OE比(観測値期待値比)

観測値・・・実際の発症率(死亡率)

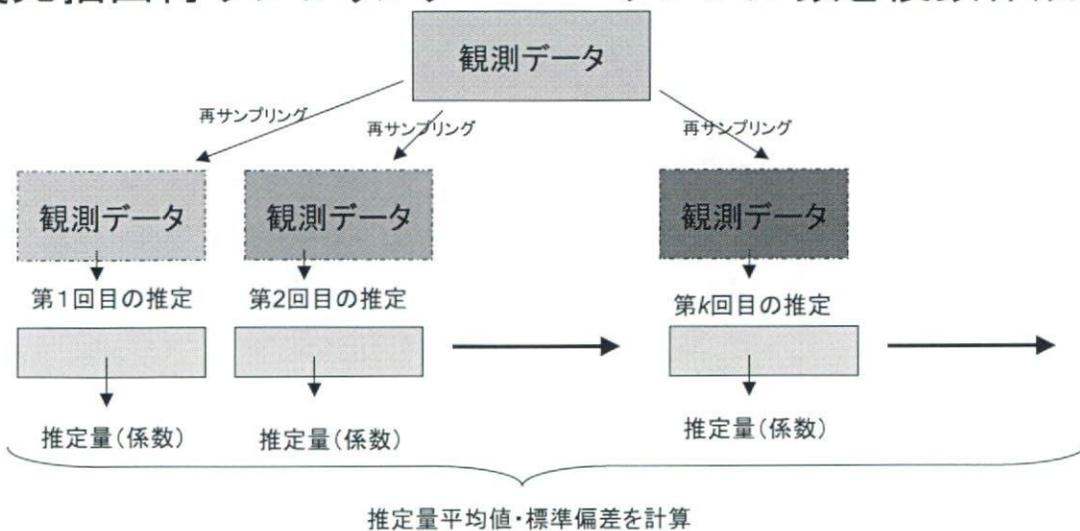
期待値・・・採択したモデルの係数を用いて
算出した予測発症確率

OE比



Bootstrap法

復元抽出再サンプリング → サンプル数を複数作成



特定の症例による影響の偏りを排除

セッティング

前立腺悪性腫瘍切除術

応答

- 1年後尿失禁の有無
- 術後創部感染症発症

説明

- 年齢, BMI, 既往歴, 術前ホルモン療法
ASAスコア
- 出血量, 手術時間 ● TNM
- ドレーン抜去までの日数, 尿道カテーテル抜去までの日数, 抗菌薬使用期間

結果 Odds比

前立腺悪性腫瘍切除術

1年後尿失禁の有無

年齢70歳以上	1.636
28.0≤BMI	1.846
高血圧の既往	0.346
術前ホルモン療法有	0.485
術前ホルモン療法欠測	7.351
出血量1690ml+	2.461

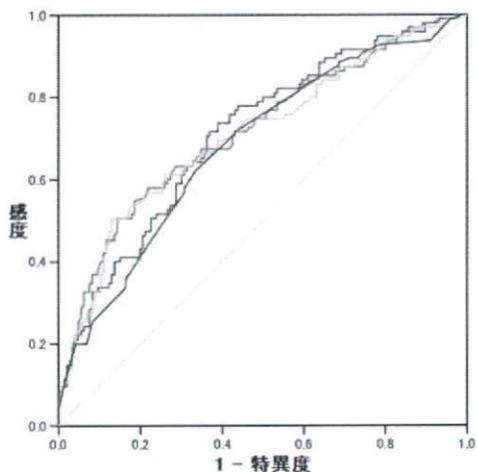
術後創部感染症発症

年齢70歳以上	2.38
22.0≤BMI<28.0	58.12
28.0≤BMI	119.96
腎疾患の既往	45.21
術前ホルモン療法有	0.03
手術時間	1.02
抗菌薬使用期間3日	0.01
ドレーン抜去までの日数	1.54

結果 ROC曲線

前立腺悪性腫瘍切除術

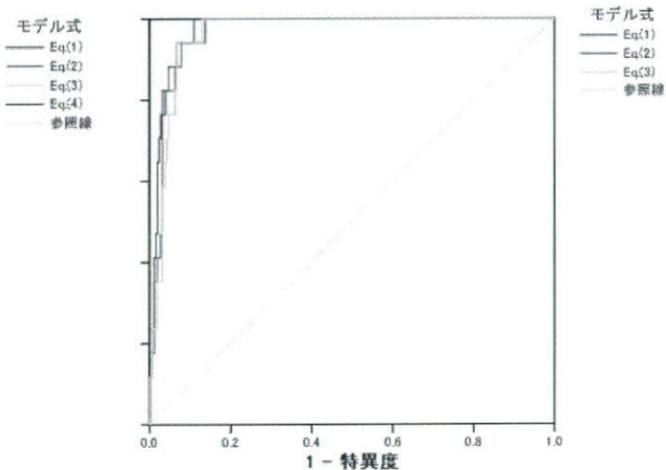
1年後尿失禁の有無



ROC下面積

Eq.(1)	0.7105
Eq.(2)	0.7161
Eq.(3)	0.7087
Eq.(4)	0.6788

術後創部感染症発症



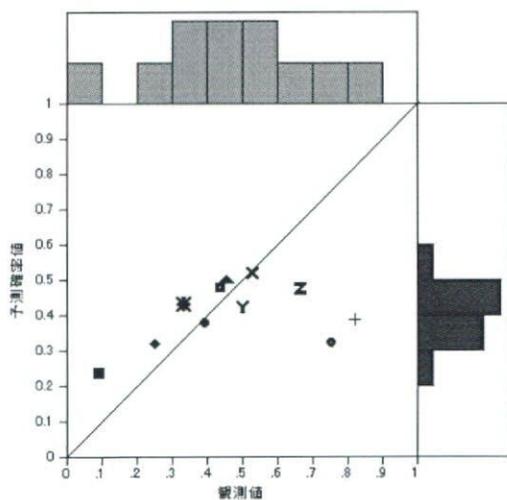
ROC下面積

Eq.(1)	0.974
Eq.(2)	0.968
Eq.(3)	0.963

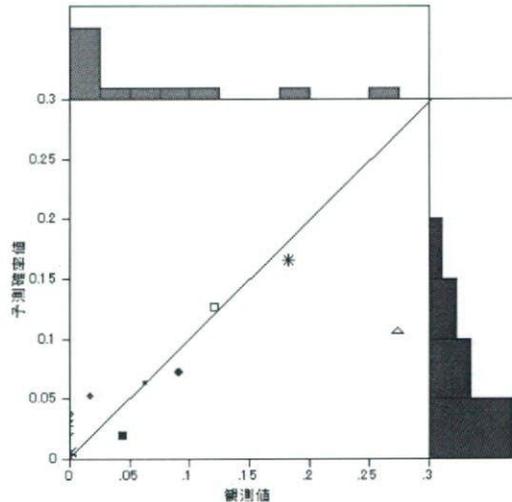
結果 施設間比較

前立腺悪性腫瘍切除術

1年後尿失禁の有無



術後創部感染症発症



セッティング

食道悪性腫瘍切除術

応答

- 術後縫合不全の有無
- 合併症発症・90日死亡 (POSSUMスコア)

説明

- 既往歴, 喫煙歴
- 術式 開胸操作、リンパ節郭清等
- 手術所見 占居部位、進行度、TNM
- POSSUMスコア

結果 Odds比

食道悪性腫瘍切除術

年齢75歳以上	4.543
cT3	1.645
リンパ節郭清3領域	3.033
占居部位Ce 頸部	19.639

POSSUM model

食道悪性腫瘍切除術

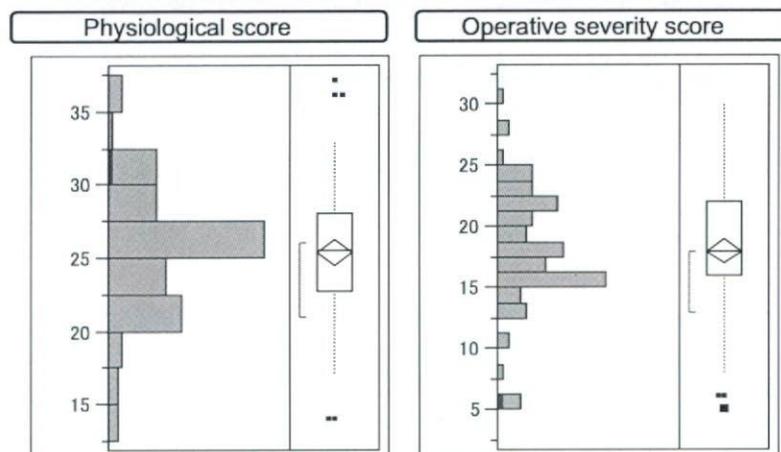
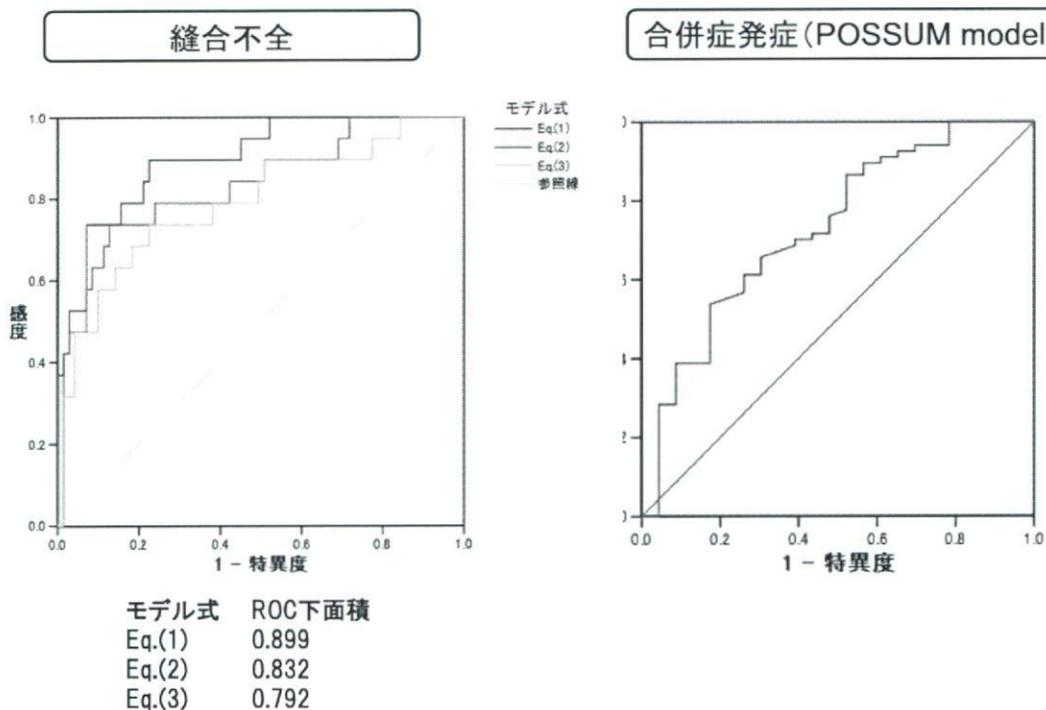


表 2.1 推定結果

変数	Mortality		Morbidity			
	Coef.	P 値	Possum	Coef.	P 値	Possum
Physiological score	0.09	0.54	0.13	0.03	0.62	0.16
Operative severity score	0.24	0.09	0.16	0.19	0.01	0.19
定数項	-10.67	0.04	-7.04	-2.97	0.09	-5.91
AIC	26.7		93.4			

結果 ROC曲線

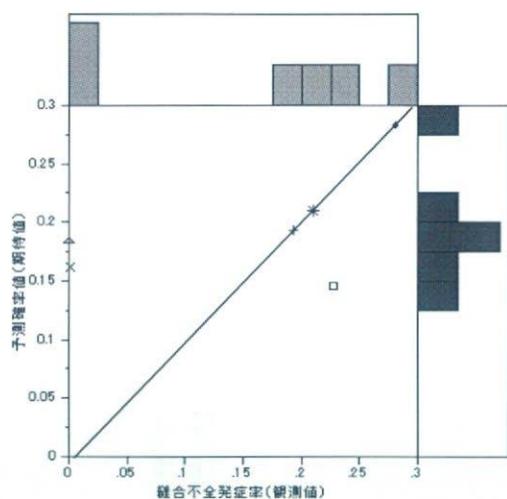
食道悪性腫瘍切除術



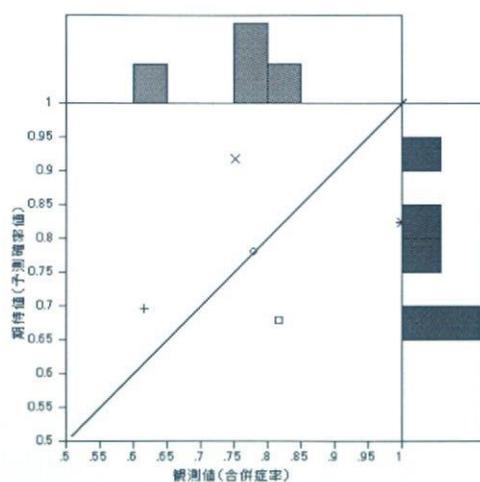
結果 施設間比較

食道悪性腫瘍切除術

縫合不全



合併症発症(POSSUM model)



セッティング

脳動脈瘤(破裂)

応答

- 1カ月後 mRS ≥ 3
- 3ヶ月後 mRS ≥ 3

説明

- 既往歴, 喫煙歴
- 動脈瘤因子(数、部位)
- 術式
- Hunt&Hess(入院時、術直前), WFNS,

結果 Odds比

脳動脈瘤(破裂)

術後1ヶ月後 mRS ≥ 3

糖尿病の既往	29.09
高脂血症の既往	0.17
腎機能障害の既往	0.04
呼吸器系障害の既往	17.23
脳血管障害の既往	10.12
動脈瘤個数2	5.72
動脈瘤個数3	10.03
手術直前WFNS IV	13.83
手術直前WFNS V	94.75
手術直前WFN 不明	25.70

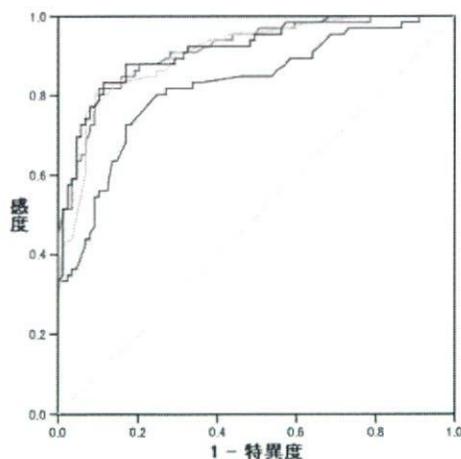
術後3ヶ月後 mRS ≥ 3

高脂血症の既往	0.08
脳血管障害の既往	10.04
入院時HuntHess II	10.76
入院時HuntHess IV	53.01
入院時HuntHess V	80.60

結果 ROC曲線

脳動脈瘤(破裂)

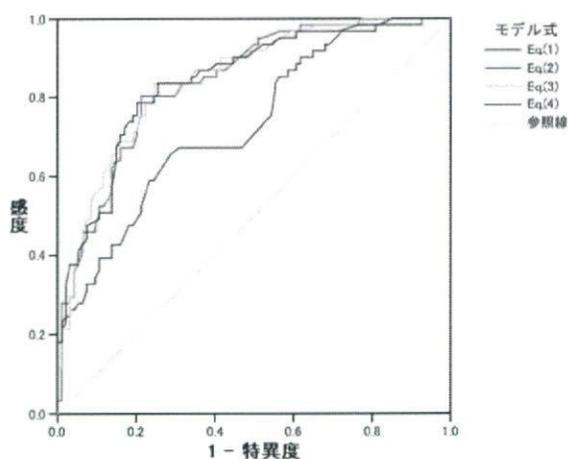
術後1ヶ月後 mRS ≥ 3



ROC下面積

Eq.(1)	0.824
Eq.(2)	0.915
Eq.(3)	0.908
Eq.(4)	0.916

術後3ヶ月後 mRS ≥ 3



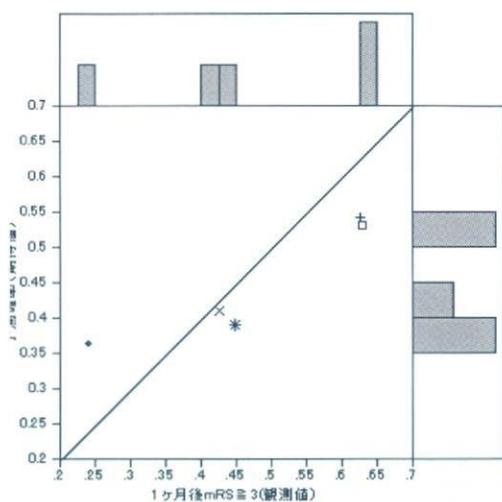
ROC下面積

Eq.(1)	0.728
Eq.(2)	0.841
Eq.(3)	0.847
Eq.(4)	0.844

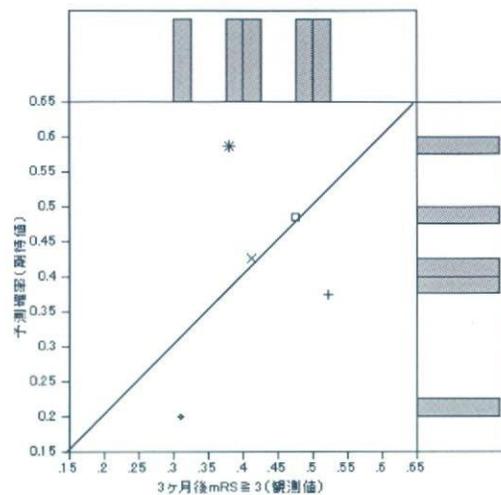
結果 施設間比較

脳動脈瘤(破裂)

術後1ヶ月後 mRS ≥ 3



術後3ヶ月後 mRS ≥ 3



検討課題

- 予測モデルの精度の向上
→変数変換・交差項
- 予測モデルの妥当性の評価
→再サンプリング法による
信頼区間推定
→学習データの適用
- 多変量アウトカムの取り扱い